

人文学部プロジェクト活動報告

人文学部は、以下のプロジェクトに戦略的経費（研究プロジェクト助成）を配分しています。（右は代表者。）

山口地域社会研究	横田尚俊
英語と英米文学	宮原一成
山口大学独仏文学	本田義昭
アジアの歴史と文化	阿部泰記
〈教え、学び、分かること〉の基礎的探求	ジュマリ・アラム

各プロジェクトの、今年度の活動報告を掲載いたします。

山口地域社会研究

「山口地域社会研究」プロジェクトは、山口地域社会学会の研究活動より成り立っている。

2012年も前年に引き続いて、3月、7月、11月と、3回の研究例会を開催した。このうち、7月14日の第30回研究例会は、「地域社会における協働の現状と課題—山口県内の事例から—」をテーマに、日本社会分析学会との合同研究例会という形で開催された。両学会の会員約60名が出席するなかで、コミュニティ政策や若者就労支援、東日本大震災被災地・被災者支援の取り組みなどをめぐり、さまざまな主体による協働の成果と可能性、課題について、熱のこもった質疑応答・討論が展開された。

また、他の研究例会においても、「新しい公共」事業や青少年非行、東アジアにおけるボランティアリズム、斜面市街地の生活問題など、現代社会の諸問題や社会変動に関する多彩な研究報告が行われた。

なお、これらの研究例会の成果を踏まえて、今年度も学術雑誌『やまぐち地域社会研究』（第10号）を刊行する予定であり、現在、編集作業

を進めているところである。

（横田 尚俊）

『英語と英米文学』

本誌は、山口大学文理学部・教育学部・教養部の英語関係教員を母体とする同人の紀要として1965年に創刊され、以来年に1回の発刊ペースで着実に号を重ねている。創刊時の編集責任の欄には、「山口大学文理学部英米文学研究室」と表示されていた。現在は、人文学部の英語学・英米文学コースの教員を中核とし、山口大学の教育学部・経済学部・工学部・留学生センターに在籍する英語学・英米文学・英語教育・英語圏文化の研究者たちが集い、ベテラン・若手の区別なく、それぞれの研究成果を報告し披瀝する媒体として、有効に機能している。また、掲載された論文や記事は、電子版が山口大学学術機関リポジトリ YUNOCA を通して順次閲覧できるようになっている。

第46号は諸般の事情により刊行のタイミング

がずれ込み、2012年5月の上梓となった。掲載されているのは、経済学部宮崎充保教授による翻訳作品“A Translation: *Vignettes of Red Beard the Doctor* (3) Written by Yamamoto Shugoro”1本。

一方で、通常ペースの編集作業進捗により、すでに第47号の刊行準備が進んでおり、今年度内に上梓される予定である。その収録記事は、

岩部浩三（人文学部教授）、「演繹と帰納—総称文における数量化について」【論文・英語学】

鴨川啓信（経済学部教授）、「39×x—ジョン・バカン『三十九階段』と増大する物語—」【論文・英文学】

宮原一成（人文学部教授）、「William Goldingの*The Spire*における読み手の自負と偏見」【論文・英文学】

宮崎充保（経済学部教授）、「*Heart Matters: Short Stories* by Yamamoto, Shugoro (1): A Translation”【翻訳作品】

以上の4本である。この各記事も、冊子体で刊行された直後に、電子化公開の手配をすることになっている。

（宮原 一成）

『独仏文学』

山口大学『独仏文学』は本学のドイツ語学・ドイツ文学およびフランス語学・フランス文学関係の専任教員を正会員とし、元教員を名誉会員、現在または過去の非常勤講師などを準会員とする山口大学独仏文学研究会の研究雑誌です。毎年1回発行され、2012年度で34号になります。

大変悲しいことですが、平成24年5月19日にフランス文学の井上三朗教授が亡くなられました。あまりの急なご逝去に私たち会員も愕然としました。井上先生は今年度末にご定年を迎えられた後も名誉会員として本研究会を支えて

くださるものと思っておりましたが、かなわぬことになりました。本会では今年度末に発行する第34号を井上先生の追悼号とすることにいたしました。謹んで井上先生のご冥福をお祈りいたします。

第34号には以下の10編を掲載しました。

『ファウスト』脚注の試み (27) 渡辺 信生
ハインリッヒ・フォン・クライストの『聖女ツェツィーリエあるいは音楽の威力』

小粥 良

研究随想；カフカの詩学

—K.とK.の末裔たち—

中尾 光延

Erich Kästeners Jugendroman „Das fliegende Klassenzimmer“, seine Originalverfilmung und zwei Remakes. Teil 2: Figurengestaltung, Veränderung der Handlungsorte im Vergleich zu Roman und Verfilmungen.

Felicitas DOBRA

Natsume Sōseki's *Der Bergmann/Kōfu* —Zeit, Auto-poetik und Körperlichkeit: Beobachtungen beim Übersetzen ins Deutsche.

Franz HINTEREDER-EMDE

独和辞典における時事単語について 本田 義昭
PRÉSENTATION ET ANALYSE DE L'UNIVERS FARMÉRIEN

Jean-Claude BEAUSIR

耳をふさいで劇を「聴く」？ —ディドロが試みた俳優の演技評価の方法— 末松 壽
福永武彦とジュリアン・グリーンにおける若干のテーマ (一)

—河、雪、彼方へのあこがれ— 井上 三朗

福永武彦とジュリアン・グリーンにおける若干のテーマ (二)

—河、雪、彼方へのあこがれ— 井上 三朗

山口大学『独仏文学』は大学など約200の関係機関に送られています。また、すべての号は数年前から電子ファイル化されて、山口大学学術機関リポジトリで公開されています。研究を取り巻く環境が大きく変わってきました。

（本田 義昭）

『アジアの歴史と文化』

私たちの研究誌『アジアの歴史と文化』は今日までに17号を発刊した。山口大学とその関係者（退職した教員、国外の学者など）の中国学を中心とする学術研究を国内外に伝えることを目的としている。研究会の前身は文理学部時代の山口支那学会であり、「中国の歴史と文化」2巻を刊行した。人文学部になって漢籍調査班を組織し、『明倫館漢籍・準漢籍目録』等の目録を編纂した。最近ではもっぱら研究誌『アジアの歴史と文化』の刊行に努め、人文学部プロジェクト研究経費の支援を得て定期刊行し、学界に新説を提起している。17号は以下のとおり、考古学、語学、文学、芸術、歴史学、社会学、教育学の各方面からの論述を掲載した。

近藤 喬一「京都寺戸大塚出土の三角縁仏
獣鏡一道仏混糅の痕跡を追う一」

馬 彪「漢末“清流”與“仁義”孟學」
富平 美波「方中履『切字釈疑』「叶韻」
の条を読む（「切字釈疑」訳注8）」

阿部 泰記「『宣講彙編』四巻の編纂」
孟 修祥「論漢代楚歌對前人的接受與新
變」

梁 惠敏「漢代楚歌悲怨美成因論略」
孟 蒙「歴史人物荊軻形象的還原分析」
徐煒・桂勝・李少傑「中國農村社會秩序
的重建：法務前沿工程的歴史社會學解
析」

周 麗玲「中國古代琴文化的雅俗之辨」

この中で、近藤喬一氏は山口大学名誉教授、富平美波・馬彪氏及び阿部泰記は山口大学教授、孟修祥・梁惠敏氏は長江大学教授、徐煒・桂勝氏は武漢大學教授、周麗玲氏は湖北大学教授である。なお孟修祥・桂勝氏は大学院東アジア研究科に客員研究員として赴任して

いただいている。

近藤喬一氏は専門の考古学の方面から、馬彪氏は古代哲学の方面から、富平美波氏は音韻学の方面からの論考を投稿され、孟修祥・梁惠敏・徐煒・桂勝氏ら湖北省の高等教育機関に在籍される研究者からはご出身の湖北省の文化に関わる論考を投稿していただいた。阿部泰記は清代の聖諭宣講のテキストの研究を発表した。これからも我々は異文化交流に関する調査・研究成果を積極的に発表していきたい。

(阿部 泰記)

山口大学哲学研究会

山口大学哲学研究会は、山口大学に所属する哲学系（思想史、宗教学、美学・美術史を含む）の教員を中心とした組織で、会誌の発行、合評会、研究発表会などの活動を行っています。現在正会員（学内の常勤教員である会員）は12名ですが、そのうち、人文学部の教員は、脇篠靖弘、柏木寧子、藤川哲、栗原剛、周藤多紀、村上龍、ジュマリ・アラム、の7名です。また、名誉会員（過去に山口大学に所属していたことのある学外の会員）17名のうち、元人文学部の教員は、上野修、遠藤徹、古荘真敬、奥津聖、加藤和哉、木村武史、武宮諦、外山紀久子、林文孝、頼住光子、豊澤一、田中均、の12名です。

会誌『山口大学哲学研究』第19巻が2012年3月に発行されましたが、掲載論文は以下の8本です。

- 佐野之人「対話形式導入による哲学講義改造の試み」
- 藤川哲「グローカリィティ研究の課題ーゲディスとウォード&デュボス」
- 青山拓央「歴史の言語的弁別について」

- 栗原剛「豊澤一著『近世日本思想の基本型 定めと当為』書評」
- 末松壽「ルソーにとってロビンソンおよび金曜日とは何であったか（1）」
- 奥津聖「パトリック・ゲディスの『地人論』」
- 木村武史「放射能汚染と放射性廃棄物をめぐる諸問題について：宗教学とサステイナビリティ学の狭間から」
- 柏木寧子「『今昔物語集』天竺部における釈迦仏ならびに衆生の理解（4）」

山口大学人文学部の予算より支給された「平成二十三年度研究経費に係る戦略的経費(研究プロジェクト助成)」は、会誌印刷の製本の費用の一部に充てられました。

また、会誌『山口大学哲学研究』第20巻は、2013年3月に発行される予定です。掲載論文は、以下7本の予定です。

- 周藤多紀「『ウスター倫理学注解』とその背景—13世紀西欧の『ニコマコス倫理学』注解書」
- 村上龍「なぜベルクソンは心霊研究に関心を寄せたのか—哲学上の方法論の観点から」
- 木村武史「ロボットと人間の融合は何を意味するのか？最近のロボエシックスの議論を手掛かりにして」
- 末松壽「ルソーにとってロビンソンおよび金曜日とは何であったか（2）」
- 来栖哲明「Kitarō Nishidas *Studie über das Gute: Betrachtung der philosophischen Begriffe der Anschauung und Intuition*」
- 山本勝也「アダム・スミスの『自然的自由の体系』と経済的自由主義」
- 奥津聖「パトリック・ゲディスのエウトピア論」

山口大学人文学部の予算より支給された「平

成二十四年度研究経費に係る戦略的経費(研究プロジェクト助成)」は、会誌印刷の製本の費用の一部に充てられました。本年度の運営委員は、ジュマリ・アラム、周藤多紀、村上林造（教育学部）の三名が担当しました。
(ジュマリ・アラム)